

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: 小児疫学調査における2歳児を対象とした採血実施状況 福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」詳細調査から

和文タイトル: 小児疫学調査における2歳児を対象とした採血実施状況 福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」詳細調査から

ユニットセンター(UC)等名: 福島UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: 福島県保健衛生雑誌

年: 2017 月: 3 巻: 29 頁: 14-18

筆頭著者名: 佐藤 晶子

所属UC名: 福島UC

目的:

エコチル調査福島ユニットセンターで実施した採血を含む医学的検査において、子どもの痛み、不安の軽減を目的とした薬理的アプローチと非薬理的ケアアプローチを用いた採血実施状況について報告する。

方法:

対象は、2014年10月から2016年6月までに、福島県内のエコチル調査参加者から無作為抽出した637名の子ども家族から同意取得の後、詳細調査参加者として登録した。2015年4月より、県内小児科基幹病院の協力のもと、1歳11か月から2歳3か月の乳幼児を対象に医学的検査を実施した。医学的検査における参加者の子どもの痛み、不安を軽減するための複合的アプローチを試みた。

結果:

2016年12月末現在、613名の子どもに医学的検査を実施した。うち611名が採血を希望し、外用局所麻酔剤の使用は69.1%であった。非薬理的ケアアプローチとしてプレパレーション、ディストラクションを実施し、採血可能であった事例は95.4%であった。検査後の保護者への採血に関する満足度についてのアンケートで、「満足」と買おうとした割合は、「検査説明」99.0%、「無痛処置」80.6%、「気のそらせ方」96.6%、「針を刺している時間の長さ」74.9%であった。

考察:(研究の限界を含める)

本報告において、子どもの感じたい痛みの程度は不明である。しかし、保護者の満足度が概ね高かったことは、採血時の取り組みが子どもと保護者の不安を軽減し得たと推測した。

結論:

エコチル調査では、2017年から4歳前後の幼児を対象とした医学的検査を開始予定である。対象となる子どもの成長発達段階に応じた薬理的、非薬理的ケアアプローチを組み合わせ合わせた複合的アプローチを用いて、子どもの痛み、不安を可能な限り取り除き安全に実施することが重要である。